

ベトナムにおけるタバコの最適価格推定

絵所秀紀ゼミナール 新井恒行 *石井雄大 安江忠晃

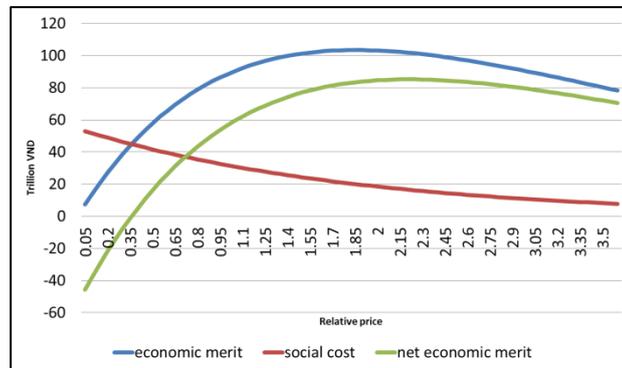
この論文は1998年に出版された後藤公彦の『環境経済学概要』および2008年に出版された河野正道『たばこの適正価格について』にあるタバコの最適価格を求めるための公式を使用し、ベトナムにおけるタバコの最適であろう価格(経済メリットを最大にしつつ、社会コストを抑制する価格)を、タバコにおける価格弾力性を用いることにより推定したものである。本論文は3章構成となっている。

第1章の前半においてはベトナムの喫煙状況を所得、年齢、地域などとの相関を見ることに加え、後半ではベトナムにおけるタバコの価格と税制度について概観していく。



第2、3章では後藤の環境経済学概要にある最適価格推定の公式、同じくこの著書の中で取り上げられている経済メリット・社会コストを最適価格推定のための変数として用いる。私たちの論文では経済メリットをタバコ総収益としておき、社会コストを医療費、喪失国民所得¹⁾とおいている。これらの変数と Eozenou の論文より引用した、タバコ価格弾力性(0.54)²⁾を用いて、最適価格を求める。

下の図は経済メリット、社会コスト、純経済メリットを示したものである。ここでいう純経済メリットとは、経済コストから社会コストを差し引いたものである。経済メリットについては、販売量は減少するが、価格が上昇するため、ある一定の点までは上昇し続ける。価格が上昇しすぎることによって、販売量が劇的に減少し、経済メリットは縮小していく。価格が上昇し、販売量が減少することによって、健康面への被害、死者数が減っていくため、社会コストは右肩下がりになる。純経済メリットは、経済コストから社会コストを差し引いたものなので、経済メリットと似たような形をとる。ここで、純経済メリットが最大になる点は、現在価値と比較して、相対価格が2.25になる点であるという結果になった。



図：ベトナムにおけるタバコ最適価格（筆者作成）

つまり、ベトナムにおいては、現状からタバコ価格を約 2.25 倍(\$3.65)³⁾引き上げることが必要であり、タバコ税の大幅なアップが必要であると考えられる。

参考文献（一部）

- ・ British American Tobacco annual report 2010
- ・ Goto Kimihiko (1998) "Introduction to Environmental Economics - new management strategy and ecology – Asakura bookselling
- ・ Hideki Higashi, Tuan A. Khuong, Anh D. Ngo and Peter S. Hill(2013) “Evidence and decision making: tobacco control policy and legislation in Vietnam.” The International Journal of Health Planning and Management. 28. e72-e94.
- ・ Hoang Van Kinh, Hana Ross, David Levy, Nguyen Thac Minh and Vu Thi Bich Ngoc.(2005) “The case for a uniform and high tobacco tax in Vietnam.” SEATCA
- ・ Imperial Tobacco ”annual report 2010”
- ・ JT annual report 2010

1) 喪失国民所得とは、国民が早死にすると国民所得の喪失という機会損失を蒙ることになる。平均 8 年早死にする とし、死者の担っていた経済的役割をあとにつづく人がだんだんとって替わるという仮定で、定量化されている。

2) ベトナムタバコの価格弾力性(0.54)

3) Tobacco Atlas データ\$1.66 を採用したものによる